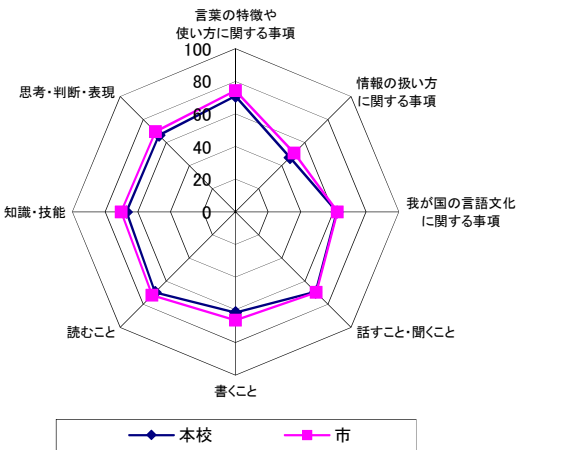


宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.0	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	47.1	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	62.1	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	69.3	69.9	69.7
	書くこと	61.7	66.4	64.6
観点別	読むこと	69.7	72.3	71.0
	知識・技能	66.9	70.1	70.0
	思考・判断・表現	66.4	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

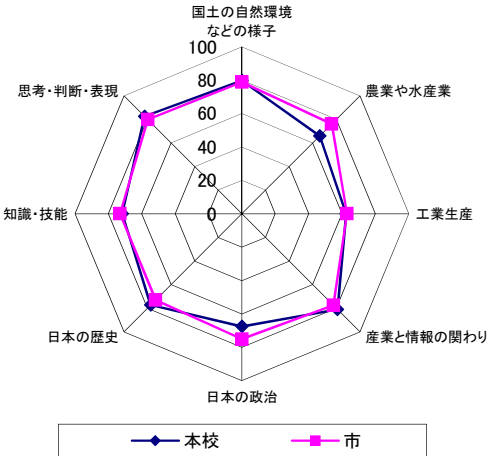
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	・領域の正答率は71.0%で、市と同程度である。 ○尊敬語について理解し、正しく使っているかを問う問題では、正答率が市を5.5ポイント上回った。 ●漢字を正しく読んだり書いたりする問題では、市の正答率と同程度であったが、全体的にやや下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・尊敬語については、相手による使い方の違いなど具体的な例を示しながら実践につなげられるようにするとともに、場面に応じて日常的に使っていけるよう支援していく。 ・漢字の読み書きについては、漢字辞典や漢和辞典を使い、漢字の意味を理解したり、部首を覚えたりすることで、漢字の知識を増やし、より深い学習ができるように支援していく。
情報の扱い方 に関する事項	・領域の正答率は47.1%で、市と同程度である。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理できるかを問う問題では、正答率が市の平均を7.9ポイント下回った。	・説明文の学習の際、筆者が言いたいことについてキーワードを見つかったり、そのキーワードを使って短い文章で書き表したりするなどし、文章を整理して表現する力を身に付けさせていく。
我が国の言語文化 に関する事項	・領域の正答率は69.3%で、市と同程度である。 ○漢字の由来について理解しているかどうかを問う問題の正答率は市と同程度である。	・漢字の学習の際、漢字ドリルや漢字辞典などを用いて、漢字の成り立ちや、音訓の読み方、熟語となった時の使われかたなどの知識が身に付くようにしていく。また、指定された漢字を使った文章を書く活動を通して、熟語や訓読みにしたときの使い方について習熟を図っていきたい。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は、62.1%で、市と同程度である。 ○互いの立場や意図を明確にしながらかつ画的に話し合えるように、司会者の発言を考える問題では、正答率が市を6.8ポイント上回った。 ●話し手の目的に応じて話の内容を捉えているか、計画的に話し合い考えるための工夫を捉えているかどうかについての問いについては、市の平均を4ポイント程度下回った。	・国語の話し合い活動だけでなく、学級活動などでも司会を務める場面があるので、実践を通してそれぞれの役割を身に付けさせていきたい。その際に、司会の仕方の例を示すなどして、よりよい話し方が実践できるようにしていく。
書くこと	・領域の正答率は61.7%で、市より4.7ポイント下回った。 ○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く問題については、市の正答率と同程度であった。 ●条件に合わせて文章を書く問題についての平均正答率は、「指定された長さ」について9.9ポイント、「2段落構成」について15.2ポイント、「自分の意見を明確に書き表す」について6.3ポイント、市の平均を下回った。	・文章で書き表す記述式の問題について、文章の内容を理解し目的に応じて書く問題についての正答率は市と同程度であることから、条件の内容について理解が足りなかったと考えられる。朝の学習で短作文に取り組ませるなど、条件に沿って文章を書く機会を増やしていきたい。
読むこと	・領域の正答率は69.7%で、市と同程度である。 ●文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げているかどうかを問う問題について、平均正答率は市の平均を7.9ポイント下回った。	・物語文の読み取りでは、登場人物の行動や会話などから、心情の変化を読み取らせていく。そこから考えたことを文章に書き表したり、友達と交流したりすることによって、物語から考えた自分の考えを広げさせていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	79.8	78.9	75.4
	農業や水産業	65.9	76.1	71.2
	工業生産	62.5	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	81.0	77.6	59.7
	日本の政治	67.5	75.0	79.3
	日本の歴史	77.3	73.1	72.8
観点別	知識・技能	71.6	73.0	71.4
	思考・判断・表現	82.5	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

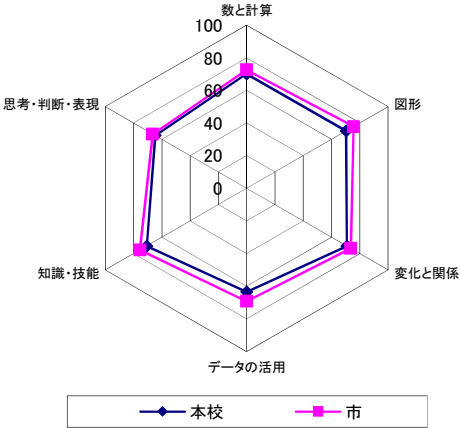
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・領域の正答率は79.8%で、市の平均正答率と比べ、やや高い。 ○日本の周辺の海洋名を問う問題の正答率が高い。 ○日本の周囲の国の国旗を問われる問題では、市平均を5ポイント以上上回った。 ●日本の主な地形の名称と位置を問われる問題では、市平均を0.3ポイント下回っており、課題が残る。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳を活用し、地形や川、山地などに着目し、知識を広げられるように指導していく。
農業や水産業	・領域の正答率は65.9%で、市の平均正答率と比べ低い。 ●都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめる問題の正答率は、市平均より22.6ポイントも下回っており、課題が残る。 ●日本の農業人口をめぐる問題について、資料を読み取る問題では、市平均を5.1ポイント下回った。	・地図帳を活用し、都道府県の名称と位置を確かめ、白地図に書き表す活動を設定する。 ・資料から正しく情報を読み取ることができるよう、資料を読み取り、自分で考えたことを表現したり、友達の考えと比較したり関連付けたりする活動を多く設定していく。
工業生産	領域の正答率は62.5%であり、他の領域より低いが、市の平均正答率と同程度である。 ○大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取る問題での正答率が高い。 ●自動車工場の作業工程について問う問題では、市平均を5.4ポイント下回った。	・調べたことをもとに、自分で考えたことを表現する活動を多く設定していく。 ・体験的な活動を取り入れたり、デジタル教材や自動車メーカーのウェブサイトなどを視聴させたりして、工業生産の様子に関心をもてるような活動を設定する。
産業と情報の関わり	平均正答率は81.0%であり、市の平均を上回り、また他の領域よりも高い。 ○資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する問題では、市平均を5ポイント以上上回った。 ●天然林と人工林についての理解を問う問題では、市平均を2.9ポイント下回った。	・他教科においても身近な環境問題について扱い、知識を広げられるように指導していく。また、新聞等を活用し、時事ニュースにも関心をもてるように指導する。
日本の政治	・領域の正答率は67.5%であり、市の平均正答率と比べて低い。 ○非核三原則についてよく理解している。 ●日本国憲法の三原則を問う問題の正答率が低い。 ●国会の仕組みについて問う問題の正答率が低い。	・日本国憲法の三原則について、生活とのつながりを考えさせながら指導していく。 ・国会・内閣・裁判所の働きについて、理解したことを自分の言葉でまとめて友達に分かりやすく伝える活動を設定していく。また、図に表してまとめるなどし、知識の定着を図る。
日本の歴史	・領域の正答率は77.3%であり、市の平均正答率より高い。 ○日本の歴史に関する様々な設問において全体的に市の平均正答率を上回り、よく理解できていた。 ●元寇後の日本についての理解を問う問題の正答率が低い。	・今後も歴史の学習を丁寧に指導していく。その時代の主な出来事については、時代の背景や原因や結果、人物の様子など、より具体的に出来事を捉えて考えていくことができるよう指導していきたい。 ・資料から読み取ったことや自分の考えをまとめ表現する時間を設定し、思考力、判断力、表現力のさらなる向上を図る。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.1	72.6	73.1
	図形	70.4	75.7	74.7
	変化と関係	70.9	73.6	66.1
	データの活用	63.4	69.2	70.7
観点別	知識・技能	70.7	75.5	74.4
	思考・判断・表現	64.8	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

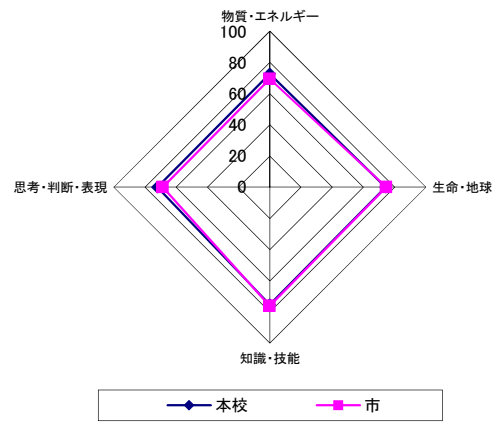
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は70. 1%で、市の平均正答率と同程度である。 ●分数や小数の計算問題(かけ算・わり算)の正答率が全体的に低く、計算の仕方を説明する問題では市の平均正答率を7. 3ポイント下回っている。 ●文字を使った式が表す場面を選択する問題では、市の平均正答率よりを5. 2ポイント下回っている。	・基本的な計算の技能の定着を図るために、計算の仕方、意味について再確認し、計算ドリル等で習熟を図っていく。 ・文字を使って表された式について、図を用いて考えたり、簡単な数に置き換えて考えたりするなど、文字が示す意味を丁寧に確認しながら練習問題に取り組めるようにする。
図形	・領域の正答率は70. 4%で、市の平均正答率を5. 3ポイント下回った。 ●合同な三角形を作図する問題では、市の平均正答率を11. 8ポイント下回り、コンパスを使った作図に課題が見られる。 ●線対称な図形の対応する点を見つける問題では、市の平均正答率を11ポイント下回り、対象な図形の性質を正しく理解できていないと考えられる。	・作図の指導にあたっては、作図の手順を決め、実際に図をかくことにより、図形の性質への理解を深められるようにする。 ・線対称・点対称な図形について、手で操作できるような具体物を用いて、線を引いたり、折り曲げたり、回転させたりする活動を通して、その性質を理解することができるようにする。
変化と関係	・領域の正答率は70. 9%で、市の平均正答率をやや下回った。 ●分速を時速や秒速に直して計算する問題では、市の平均正答率を7. 5ポイント下回り、単位の関係性を正しく理解できていないと考えられる。	・速さについては、単位の関係性を表や図に整理することで、その関係性を正しく理解できるようにしていく。また速さは理解が難しい内容であるため、授業や宿題等で、単位量当たりの大きさや速さについて定期的に学習を振り返り、知識の定着を図っていく。
データの活用	・領域の正答率は63. 4%で市の平均正答率を5. 8ポイント下回った。 ●データの見方に関して、市の平均正答率と比較すると、ドットプロットから最頻値を読み取る問題では9. 7ポイント、度数分布表を完成させる問題では8. 3ポイント低く、用語の理解や数値の正しい読み取りに課題が見られる。 ●表から数値を読み取り、平均を求める問題では、市の平均正答率を5. 9ポイント下回り、平均の求め方を正しく理解できていないと考えられる。	・「データの見方」の理解を深めるため補充問題を解き、中央値・最頻値・平均値の理解をさらに深められるようにする。 ・いろいろなグラフを読み取り、必要な情報を読み取る活動を多く設定するとともに、平均の正しい求め方をきちんと確認し、式の意味を理解できるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.7	69.3	65.7
	生命・地球	74.3	74.7	77.8
観点別	知識・技能	75.2	76.2	76.4
	思考・判断・表現	72.0	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・領域の正答率は72.7%であり、市の平均を3.4ポイント上回った。 ○振り子が1往復する時間に関係する条件を設定し実験を計画する設問で約13ポイント、水溶液の重さに関する設問で約13ポイント、火が消えた理由を考察する設問で約6ポイント、市の平均を上回った。 ○思考力を問う設問の正答率は、ほとんどの設問で市の平均を大きく上回っている。 ●ろ過の仕方や平均の求め方、実験上の注意点など、実験の技能に関する設問の正答率が市の平均を大きく下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・明確な課題の提示あるいは仮説の設定、実験の計画から考察までをセットにした構造的な学習を繰り返してきたこと、さらにキーワードを提示して考察をまとめる活動を取り入れてきたことの成果と考えられる。今後も、構造的な学習の展開を継続していく。 ・感染症対策のため実験の実施が制限されたことが、実験に関する知識や技能の定着に影響していると考えられる。個別あるいは少人数での実験方法を工夫し、技能の習得や体験に基づいた知識の定着を図るようにする。 ・プリントやAIドリル等で復習した内容についての正答率が高いことから、今後も継続的に復習の機会を取り入れ、基礎的な知識の定着を図るようにする。
生命・地球	・領域の正答率は74.3%であり、市の平均と同程度である。 ○呼気に二酸化炭素が多く含まれることを調べる実験を構想する設問で約9ポイント、植物の成長に日光が必要な理由を記述する設問で約5ポイント、いずれも思考力を問う設問で市の平均を上回った。 ●唾液によるでんぷんの分解を調べる実験の際の水温に関する設問や、酸素・二酸化炭素といった専門的な用語を用いる設問での正答率が市の平均を大きく下回った。	・今後も構造的な学習の展開を継続するとともに、日常生活との関連付けを意識した教材を工夫し、実験の構想から考察まで主体的に取り組めるようにすることで、より一層の思考力の育成、知識の着実な定着を図る。 ・日常生活ではあまり用いない専門的な用語や実験に関する数値などについて、単元の途中で定着の様子を調べたり、プリントやAIドリル等で繰り返し復習したりして、着実な定着を図るようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力向上に向けた指導の工夫	・説明文の読み取り方の手立てや指導法の研究による授業づくり ・読解力を付けるための語彙・文法の基礎の定着を図った朝の学習でのプリント学習 ・読書の推進	・国語の「読むこと」の領域に関して、領域の正答率は市よりやや低い。 ・読書に関する質問において、低学年が9割、中学年が8割、高学年が7割であり、低学年の方がいろんな種類の本の楽しさを感じていた。
作文力の育成	・作文力を付けるための朝の学習や家庭学習における定期的な短作文プリント学習 ・新聞の活用	・国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は市より低い。 ・質問紙の結果から、新聞を読んでいる児童の割合は、市と同程度または低かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方角性

・授業では、課題に対して興味をもって取り組んだり、学習したことを生かしたりできるように展開の工夫をし、課題解決を通して、わかる楽しさを実感できるように授業の工夫改善を図っていく。 ・各教科の実践や新聞記事を活用して、世の中のことに興味を向けられるようにしていく。更に、自分の生活と結び付けて考えられるようにしていく。また、読み取ったことを基に、自分の考えを書いたり、説明したりできるような活動を意図的に設定し、表現力の育成をしていく。
